**手関節の鏡視下手術**

済生会下関総合病院　整形外科科長

安部幸雄

低侵襲手術，すなわち患者に負担をかけず早期復帰を可能とするアプローチは，現代の外科医にとって避けて通ることが出来ない．鏡視下手術はその代表的手術手技であり，整形外科では膝，肩は既に多くの手術が鏡視下で行われており，手関節，足関節などの小関節でもその流れは確実に押し寄せている．手関節では橈骨遠位端骨折などの急性疾患は元より，TFCC損傷をはじめとする手関節慢性疼痛に対しても鏡視下手術が必須である．現在，当科では舟状骨骨折・偽関節などの手根骨の整復・固定，キーンベック病に対する月状骨掻爬，骨間靭帯修復，Sauve-Kapandji 手術などにも鏡視下手術を試みている．これまでの経験と診断，治療のポイントについて述べてみたい．